

令和3年度 さいたま市立ひまわり特別支援学校 学校関係者評価書

さいたま市立ひまわり特別支援学校

学校関係者評価委員長 齋藤 一雄



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

10人(学識経験者、PTA会長、隣接中学校長、近隣商業施設店長、民生・児童委員、自治会役員、進路先事業所代表、公民館長、隣接関係機関代表)

(2) 実施回数

2回(うち1回は書面開催)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

【教育活動について】

- ・感染対策を行いながらの制限のある中だったが、子どもたちが楽しく学校で色々な活動に取り組むことができたことについては感謝している。
- ・校内、校外ともに、触れ合いを大切にしている。

【保護者・職員アンケートについて】

- ・AとBの評価を合わせて95%以上が肯定的であったかもしれないが、例年に比べてA評価が下がり、C評価の件数が増えていることは受け止め、改善や来年度に活かしてほしい。
- ・コロナ禍の特殊な状況下でも、保護者の肯定的評価は高い水準が維持され、しっかりとした信頼関係が構築されていることが分かる。
- ・コロナ禍ではイレギュラーな対応を求められるケースも多く、迅速な判断を行うためには、今後、対処ノウハウをいかに蓄積していくか重要になってくると感じる。

【今年度の成果と課題について】

- ・感染対策や安全な活動について確実に行っていることはありがたい。学校、教育委員会だけでなく、学校医等とも信頼性を高めて、今後は協力して行ってほしい。

【いじめ防止について】

- ・自分と他人を大切に作る心の豊かさを育みながらいじめをなくしていく前向きな試みは、生徒間、生徒と職員間にも影響を与え、学校全体の雰囲気向上につながっているように見える。
- ・感染症対策を行いながらではあるが、対面での学部間交流もできるようになるとよいと思う。

【コミュニティ・スクールについて】

- ・地域の組織や企業等との密着性を高め、卒業後の進路の創出(ライフステージに沿った縦のつながり)にも繋げていけるようなシステムを構築できれば、生徒や保護者の励みにもなり、意義あることだと思う。

【熟議(子どもたちの安全・安心のために、学校・家庭・地域でできること)について】

- ・卒業後の進路先である施設の確保は、今後も大切である。
- ・様々な子どもたちがいる中で、家庭を離れて、安心して子どもたちが過ごせる場所を作っていくにはどうしたらよいか、卒業後の進路も含めて考えていきたい。
- ・気をゆるさず、まず身の回りでできることを確実に行っていくことが大事であると考えている。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・次年度以降も制約のある中での教育活動の実施となっても、「学びを止めない」を合言葉に、創意工夫しながら様々な取組にチャレンジしていく。
- ・学校の教育活動についての発信方法を工夫改善し、保護者、地域からの理解を更に深めていく。
- ・次年度は学校運営協議会の実施にあたり「ローカル・コミュニティ」と「テーマ・コミュニティ」をバランスよく取り入れながら、本校独自のコミュニティづくりを進めていく。

さいたま市立ひまわり特別支援学校長 長谷場 明博

